

令和7年度学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立町田工科高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主幹教諭（教務主任兼務）＝事務局長、教務部員2名 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務担当）、主任教諭（生活指導担当）、主幹教諭（進路指導担当）、主幹教諭（総合情報科担当） 計7名
- (4) 協議委員の構成
福本 由紀子（PTA会長）、田辺 直（同窓会会長）、山尾 研一（地域住民代表）、土井 康作（大学教育代表）、高橋 博幸（近隣中学校長）、畠中 勝美（近隣小学校長） 計6名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和7年6月27日（金）内部委員7名、協議委員5名
校長挨拶、協議委員委嘱、委員紹介
本校の現状と課題及び今年度の活動について（学校経営報告、学校経営計画、各分掌からの説明）
 - 第2回 令和7年11月28日（金）内部委員7名、協議委員5名
校長挨拶、本校の近況報告について（各分掌からの中間報告）
令和7年度学校評価アンケートの実施について
 - 第3回 令和8年3月19日（木）内部委員7名、協議委員5名
校長挨拶、今年度の成果と課題について（各分掌からの報告）
令和7年度学校評価アンケート集計結果について
- (2) 学校評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和7年11月28日（金）内部委員3名、評価委員3名
委員長挨拶、評価委員委嘱、委員紹介、学校評価アンケートについて
 - 第2回 令和8年3月19日（木）内部委員3名、評価委員3名
委員長挨拶、委員紹介、学校評価アンケート集計結果報告

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
 - ・1月 全校生徒 対象：464人 回収率：95.0%
 - ・1月 保護者全員 対象：464人 回収率：43.3%
 - ・2月 地域住民 対象：80人 回収率：40.0%
 - ・1月 教職員 対象：51人 回収率：98.0%

(3) 主な評価項目

学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設設備、教職員の意識等

(4) 評価結果の概要

- ・昨年度、教職員のアンケート実施率が低かったことを受け、会議でのアンケート実施の必要性等について説明したほか、回答していない教職員一人ひとりに声をかけ実施を促した。結果、回答率が42.0%から98.0%と向上した。しかし、教職員の意識の低さは昨年と同様にみられるため、引き続き必要性の説明をしていくのが良いと考えられる。
- ・学習指導において、教職員の満足度が低い。教職員が目標とする学習指導と、生徒・保護者が期待する学習指導に差が生じていると考えられる。生徒・保護者の声を拾い、フィードバックしながら授業を見直していくことが必要である。
- ・外部に対しての本校の印象が、生徒・保護者・教職員とも良くないと感じている。広報活動と生徒指導とをどちらも力を入れていかなければならない。
- ・昨年度のアンケート結果と比べ、今回は自由意見で具体的な意見が出てくるようになった。アンケートを取っても無駄という意識から、学校への具体的な要望を出したいという意識に変わってきたと感じている。
- ・主に自由意見において、校則に関する意見が多く見られた。校則等を見直すことも視野に入れながら、今回の結果を受け止め、検討していく必要がある。

(5) 評価結果の分析・考察

- ・「生徒が教職員に悩みを気軽に相談できる環境があると思いますか。」という質問において、生徒の22%、保護者の29%が相談しにくいと感じている。生徒数から考えると約97名の生徒が相談しにくいと回答

している。生徒の悩みを相談しやすい環境づくりを、早急に対応していかなければならない。さらに、保護者の評価は厳しいものであることを認識し、学校全体の課題として取り組んでいく必要がある。

- ・「中学生の本校に対する印象は良いと思いますか。」という質問において、教職員の「あまり思わない」、「まったく思わない」が44%、生徒が38%、保護者が27%である。中学生の印象は受検者にダイレクトに影響する。改善するために何が必要かを学校全体で考え、対策していく必要がある。
- ・「生徒に対する教員の言葉遣いは適切だと思いますか。」という質問において、本来は「そう思う」が100%であるべきであるが、生徒の69%、保護者の63%、教職員の64%が「そう思う」以外を回答している。さらに、自由意見には教員の言葉遣いに対する意見が多く挙がっていた。教職員一人ひとりが意識を高く持ち、自分自身の行動を見つめ直すだけでなく、お互い指摘し合えるような環境づくりをしていく必要がある。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・教員の言葉遣いに関する意見は、これまであまり出てこなかった。今の時代に合っていない発言であることを認識し、学校全体で問題解決を図るべきという意見が挙がった。
- ・校則に対して、人によって対応が違うという意見は不公平感につながるため、しっかりと対応していく必要があると確認することができた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・委員から、校則となっている理由や指導の意味を、生徒に伝えられていなかったり、正しく伝わっていかかったりするのではないかという意見が挙がった。より丁寧に、そしてきめ細かに、生徒に指導をしていくことが課題である。
- ・地域住民からは学校は好意的に見られており、もっと開放してほしいという意見も挙がっていた。地域住民が学校に来るような行事を検討していく。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

- ・募集対策を見直し、中学生に選ばれる学校にしていく。
- ・地域住民へ還元できるような行事を行い、これまで以上に開かれた学校づくりの推進を図る。

(2) 学習指導

- ・選択科目の充実を図り、多様で多面的な学習指導を継続し、生徒の学びにつなげる。
- ・工科高校の強みを生かした教育活動を行い、資格・検定の取得に向けて取り組んでいく。

(3) 特別活動

- ・文化祭等の行事の企画内容を充実させ、本校の特色を生かした活動を実施する。それらの行事を通じて地域の方々に本校の魅力をPRする。
- ・部活動加入率を高め、部活動の活性化をさらに図る。

(4) 生活指導

- ・校則の見直しを行い、生徒の実状に合わせた指導となるよう検討をしていく。

(5) 進路指導

- ・外部組織と連携し、各学年の状況に応じた指導を行う。

(6) 健康・安全

- ・自転車通学者が多いことに加え、令和8年4月から道路交通法が変わるため、許可証発行時にヘルメットを持っているかを確認するようにし、着用率100%を目指す。
- ・スクールカウンセラーを活用し、生徒の精神面でのサポート体制をより充実させる。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 6人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
6						0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

令和7年度の参加実績はない。

8 その他

- ・アンケートの重要性を伝え、昨年度より回収率が大きく上がった。保護者のアンケート回収率をさらに高めるための工夫が必要である。